

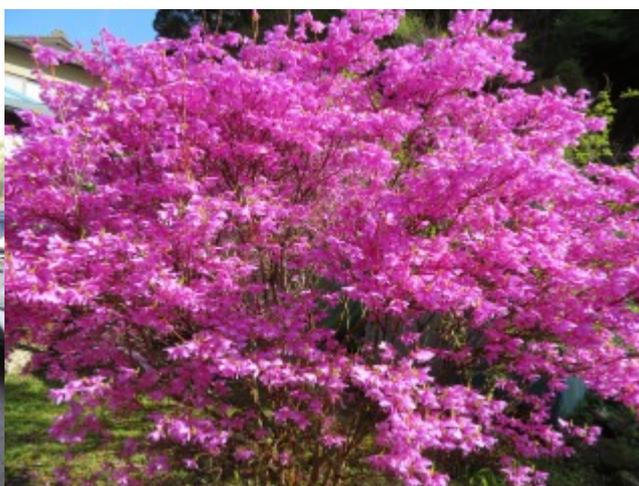
裾野麗峰山の会・山行報告書	文・伊藤 写真・後藤
山行番. NO. 2015	
日 時 2023年04月08日(土) 晴	
山 域 東丹沢・大山(1252m)	
コース 長泉発 6:00-表参道登山口(ケーブル下駐車場) 7:49-女坂-大山寺 8:34-阿夫利神社 9:06-大山 10:55~11:35-往路下山-茶屋 13:50-駐車場 14:35-長泉 16:00	
標高差 上/下り 駐車場約315m~大山1252m=約937m	
データ 駐車料金1000-	
<b>階段の山・一体何段あるの??</b>	
参加者 後藤、加藤・井上・伊藤、斎藤=5名	

心配していた昨日の雨も今朝はすっかり晴れ、東名を東に向かった。さて、大山登山口へは、何処の出口を降りるのか、運転手さん任せの私は呑気にしていました。

結局、計画の新東名・伊勢原JCTは、伊勢原大山ICには行けず、厚木ICで戻った。駐車場に着き、登山開始ですが、トイレが見当たりません。仕方なくまだ開いていない、ケーブルカーのトイレをそっと借り、ゲートの扉もそっと閉めて来ました。ヤレヤレ。



駐車場



ミツバツツジ

いよいよ登山開始といっても、階段ばかりです。両側にお店がズラリ並んだ中を通り抜けると、神社やお寺の立派な建造物がやたら多く、何処を拝んでいいのか迷う程ありました。

阿夫利神社の地下には、「神泉」が出ていて、ちょうど良い冷たさの水を有難く飲ませて貰い、一周しました。以前は、「お神酒」自由に飲めたようですが、コロナで中止の様でした。

まだまだ、階段です。モーレツな急階段を上ると、「大山寺」でした。寺を過ぎると、やっと登山道らしき道に出てホッとしたけど、急登なので、なかなか手ごたえがあり、ハアハアです。



阿夫利神社



大山寺



神泉

道の脇に何丁目と書かれた標石を励みにして二十八丁目の山頂に3時間掛かって着きました。山頂には立派な奥の院があり、良くぞ建てたものだと感心しました。ただ、霧が掛かり正直、展望はあまり良くなかったです。

別の登山道から上って来る人達もいて、そう広くない山頂は一杯で、少し場所待ちをして昼食を摂りました。その間も、次から次に登山者が来るので、早々に済ませた。

奥の院前で記念撮影をして下山です。程なく上って来る「歩荷さん」に会いました。



歩荷さん



奥の院



山頂鳥居

体格が良い中年の男性でしたが、70kg背負って、ケーブルを使わず、下から上って来たとの事。5～6歩上っては、「カテ～」と独特の気合を入れ、皆の視線を励みに(?)上って行きました。

山は神社やお寺にお参りに来たついでに上ってみようという感じの軽装の人たちが目立ちました。若い人や5～6歳の子供たちがいて明るい雰囲気での登山道でした。中に「サンダル履き」の外人さんがいて驚きました。帰りの足元は、「大変だよ。心配だね」と話しながら下山しました。



夫婦杉



阿夫利神社

2時間ほど下り、土産物屋を兼ねた食堂に入り、カラカラになった喉をうるおしました。名物の「大山豆腐」「ワラビ餅」「杏仁豆腐」「味噌たれ豆腐」が美味しかった。男性は、ビア・熱燗。ツマミは、「冷や奴」

「冷や奴」は、箸でなく、竹を三本に仕立てた独特の「和製フォーク」で頂きました。フォークは、250円で販売もしていました。

帰りは、高速道路を更に東に向かいそうになりましたが、「ちょっと、おかしい？」と加藤さんの機転で、インターの係りに確認して、西へ向かう方法を教えて貰った。

何列もあるゲートから、車がズロズロ出て来る広いインターの中を神業と思える運転で横切り、最短の距離でUターンし、車は西に向かいました。「パチパチ」その後、ノンストップで長泉に16:00頃着きました。お疲れ様でした。



男性＝冷奴と竹製フォーク

女性＝杏仁豆腐・コーヒー

#### その他の記述（後藤）

1. トイレは、駐車場下にある。
2. お山は、阿夫利神社が有名だが、立派な大山寺（おおやまてら）もある。宗派は真言宗。従って弘法大師の記述が多い。ご本尊は不動明王。山には、朗々とお経が流れる。
3. 丹沢の歩荷は、鍋割山の草野さんが有名。若いころは、100kg 背負ったという。人間が背負える上限は70kg といわれる。  
もっとも、世の中にはもっと凄い方が居た。北アルプス・白馬岳山頂の方位盤は、50 貫（187kg）といわれるが、それを持ち上げた人が居た。新田次郎「強力伝」に書かれた、静岡県小山町の小宮山正さんである。  
187kg は、信じがたい重量だ。小宮山さんは、富士山で強力を生業としていた。金時山の金時娘・小宮山妙子さんの父君だった。因みに、心臓が「右」と聞いたことがある。  
研究で亡くなった時、解剖したという。私が背負った最重量は、1982年12月、五竜岳の36kg である。
4. ネットでは、女坂経由で阿夫利神社まで階段数は、「1610 段」といわれる。勿論、その上も、まだまだ階段が続きます。
5. 山頂は、2016 年に比べ随分、整備されていた。ベンチの数が多くなり、休憩・食事が摂り易くなった。下の裏には、キレイなトイレも完備。テシ場もある。

#### 参考記録

<http://susono-reihou.babyblue.jp/20091011ooyama.pdf>

<http://susono-reihou.babyblue.jp/609.pdf>